

アルツハイマー型認知症（AD） 早期発見のために

MRI画像を使って、脳の萎縮度をみるブイエスラドによって、アルツハイマー型認知症（AD）の早期発見が可能となりました。早い段階からの積極的な治療へとつながり、結果としてアルツハイマー型認知症の進行を遅らせることが期待されます。

ブイエスラドとは？

MRIを用いて**海馬傍回付近における脳の萎縮の度合い**を検査するものです。

なぜ海馬傍回付近を みるのですか？

アルツハイマー型認知症では、海馬傍回付近の萎縮がもっとも早期にみられるためです。

どのように脳の萎縮をみるのですか？

MRIで撮影した頭部の画像データと、あらかじめ用意しておいた健康な脳の画像から作ったデータを**コンピューターで照合・解析**し、脳の萎縮の度合いを測ります。**海馬傍回付近は非常に小さく、目で萎縮を確認することが難しいのですが、この検査ではコンピューター解析により確認できます。**

簡単に検査できますか？

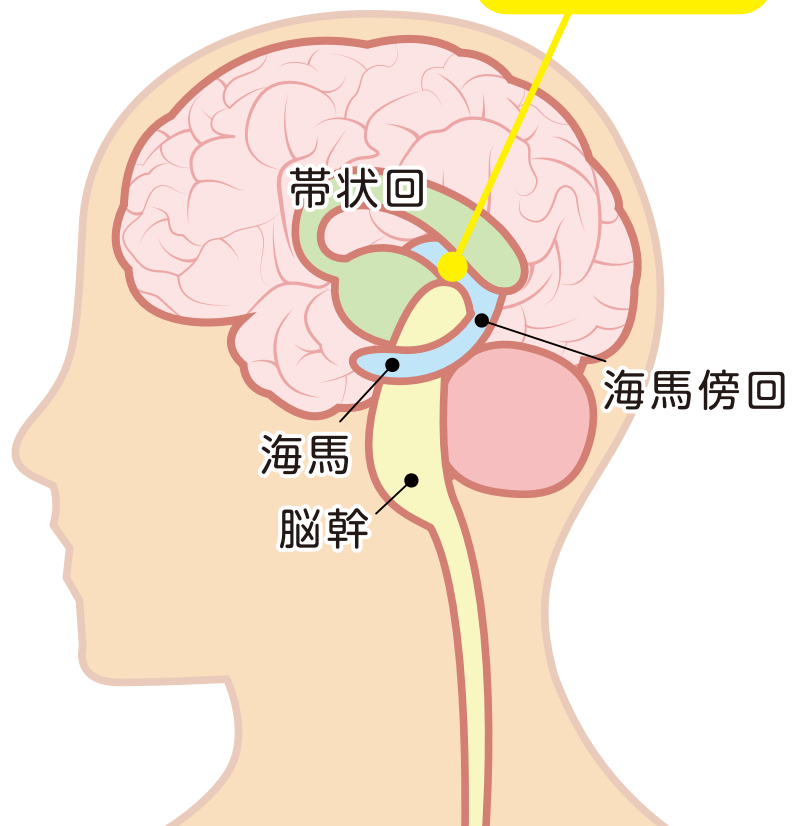
患者様は頭部のMRI画像を撮るだけで検査できます。通常のMRI検査の一環として行うことができ、検査中の痛みはありません。食事制限等もなく、検査前後も普段通りに生活できます。

注意

ブイエスラドによる検査は、あくまで脳萎縮を客観的に評価する検査です。

海馬傍回付近や背側脳幹に萎縮がみられても、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症とは限りません。症状、経過や他の検査結果などとあわせて総合的に診断してもらうことが大切です。

ブイエスラドによる検査で
注目する場所



子宮頸がん検診では、問診・視診・内診・細胞診検査が行われます。2008年から国際的に使われていた「ベセスダ分類」という分類が近年になり日本でも統一されて使われるようになりました。この分類は、HPV感染の有無や細胞の異常の程度が細かく分かれており、そこから推定される病変も区別されています。



分類	検査結果	結果	推定される病理診断
扁平上皮系	NILM	異常なし	正常範囲内
	ASC-US	要精密検査	異形成と言いきれないが細胞に変化がある
	ASC-H		異形成はあるけれどもはっきりとはわからない状態
	LSIL		ヒトパピローマウイルス(HPV)に感染していたり軽度異形成の可能性がある
	HSIL		中等度異形成・高度異形成・上皮内がんの疑いがある
	SCC		明らかに扁平上皮がんがある
腺細胞系	AGC	要精密検査	腺異型、腺がん疑い
	AIS		最初期の腺がん
	Adenocarcinoma		進行した腺がん
	Other malign.		その他の悪性腫瘍

この分類の検査結果により下記のように経過観察や精密検査となります。

NILM	ASC-US:要精密検査	ASC-H以上:要精密検査
1～2年ごとの子宮頸がん検診を受けましょう。	①HPV（ヒトパピローマウイルス）テストが望ましいです。 ②HPVテスト非施行時は、6ヶ月以内の細胞診や再検査が望ましいです。	コルポスコピー検査や生検での精密検査が必要です。

HPVとは…

ヒトパピローマウイルスというウイルスです。HPVには100以上のタイプがあり、そのうちハイリスク型HPVというものが、子宮頸がんの原因になるといわれています。

異形成とは…

子宮頸がんではないものの、細胞成熟過程の乱れと核の異常を示す病変「異形成」の段階で発見し、対処することでがんの発生率を下げるすることができます。

子宮頸がんは20～40歳代に多く発症しますが、閉経後でも発症する方はいます。発症初期では自覚症状がないことが多いです。だからこそ、婦人科健診を受けることがとても大切です。また、おりもの異常や子宮筋腫、卵巣のう腫などの診断につながることもありますので、定期的な婦人科健診を受けることをおすすめします。